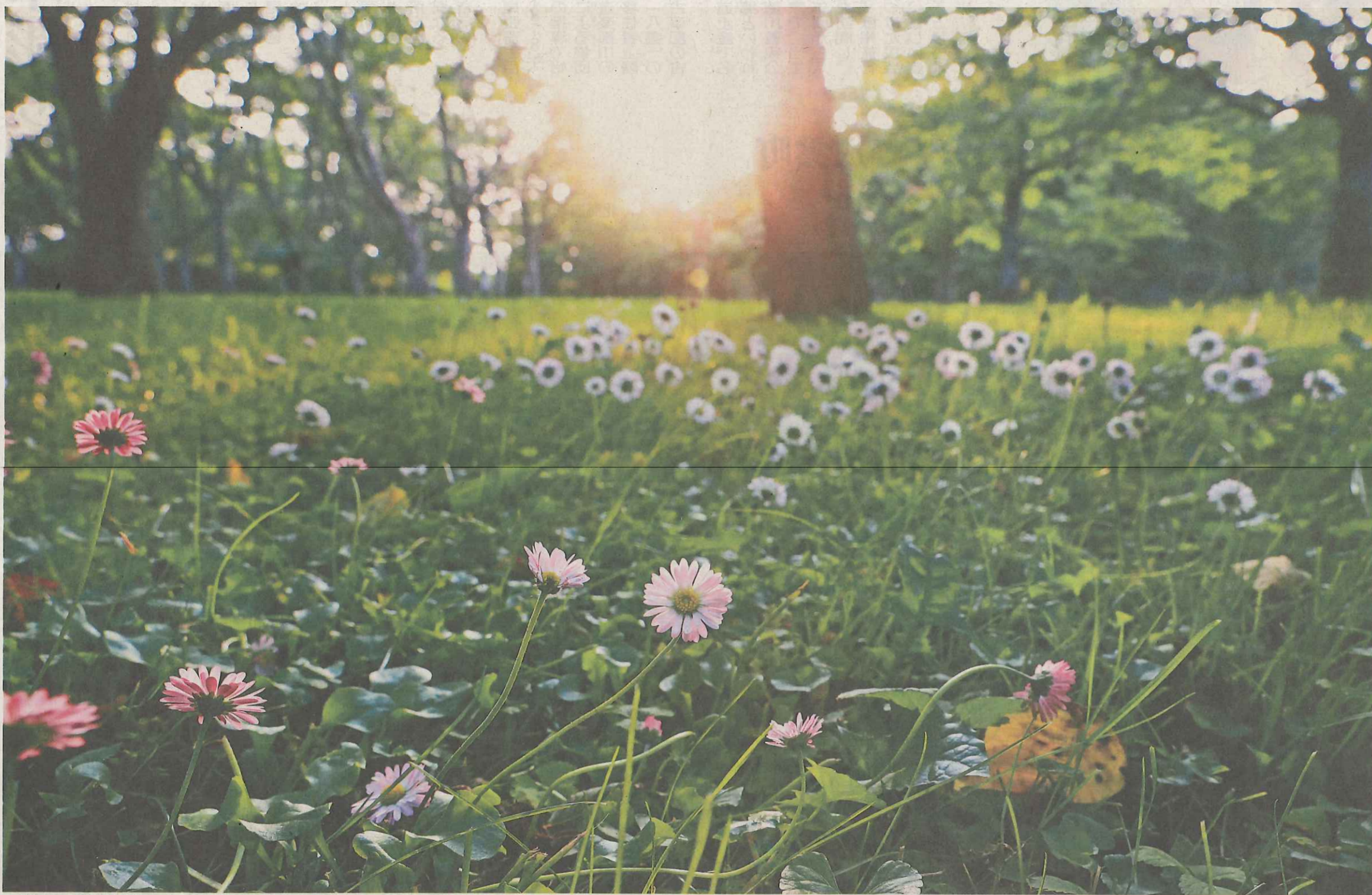


菅原房子作詞 なかにし礼補作詞
「花の首飾り」1968年

花咲く娘たちは 花咲く野辺で ひな菊の花の首飾り やさしく編んでいた



夕暮れ時、静けさが漂うさらんべ公園の一角。ヒナギクがかれんな花を咲かせていた(北海道八雲町で)

よみほっと日曜版

名言巡礼

豊かな自然が原風景

広大な緑の草原は、朝から霧に包まれていた。やがて木々の間から太陽の光が差し込み、穏やかな風が頬をなでる。冷涼な地を好むヒナギクがピンクや白の可憐な花を咲かせていた。
北海道八雲町の豊かな自然の中で

育った作詞者、菅原房子さんの原風景だ。当時19歳。八雲高校の定時制4年に通う女子学生だった。
1967年に「僕のマリー」でデビューしたザ・タイガースは、橋本淳作詞・すぎやまこういち作曲のコンピでヒットを連発し、瞬く間にグループサウンズの頂点に立った。この人氣に注目して企画されたのが、「特別大懸賞・スパークするタイガースの『歌う歌』をみんなでつくろうク」。雑誌「明星」の68年新年号に目玉企画として掲載され、13万543編の応募があった。その中から選ばれたのが菅原さんの詞。物語仕立ての長文で書かれていたので、作詞家のなかにし礼さんが補作して形を整えたが、冒頭の「花咲く娘たちは 花咲く野辺で」はオリジナルのまま生かされている。

のちにタイガースの元メンバー、瞳みのるさん(70)が菅原さんに聞いたところによると、当時女子学生の間に野の花を摘んで首飾りを作るのが流行していたこと、バレエ音楽「白鳥の湖」の悲恋物語が頭に浮かんだことが、詞の着想につながったようだ。後半では、花を摘む娘たちが森の中で白鳥に姿を変える描写がある。毎冬遊樂部川の河口付近に飛来する白鳥は、彼女にとって身近な存在であったに違いない。

八雲町では2014年、「花の首飾り」を町づくりに生かそうと推進組織が発足し、コンサート開催やヒナギクの花壇づくりなどが行われている。推進組織の代表で靴店を営む長江隆一さん(77)は数年前までバンドを組み、タイガースの楽曲を歌ってきた。菅原さん一家と付き合いがあり、「お父さんは無声映画の弁士でクラリネットの名手。音楽一家のDNAは房子さんにも受け継がれていた」と話す。
午後5時、防災無線から「花の首飾り」のメロディーが流れ、町はゆっくりと夕闇に包まれていった。

文・永峰好美
写真・吉岡毅



グループサウンズ、ザ・タイガースの5枚目のシングル盤として1968年3月に発表された曲。雑誌「明星」で公募した中から北海道在住の菅原房子さんの詞が選ばれ、なかにし礼さんが補作した。作曲はすぎやまこういち

さん。加橋かつみさんが初のリード・ボーカルを務めた。68年4月15日のオリコンチャートで1位になり、7週連続でトップを独走したグループ最大のヒット曲。井上陽水さんやレスリー・マッコーエンさんら、国内外の多くのアーティストがカバーしている。



動画は YOLでも

■ 問い合わせは読者センター
東京 03-3246-2323
大阪 06-6363-7000
■ 読売新聞ご購入は 0120-4343-81

よみほっと 日曜版

- 3 アート散歩
——ジャコメッティ展
皇室ダイアリー
はな図鑑
- 4 漫画「猫ピッチャー」
ポケモン たのしい方言
- 5 味な話
——井坂洋子さん
激推し!新着ソフト
- 7 テレビ情報
長瀬智也さん登場
- 10

…2面に続く

木彫りの熊 開拓民の支え

北海道の八雲町は2005年、太平洋側の旧八雲町と日本海側の熊石町とが合併して、日本で唯一、太平洋と日本海の二つの海に面した町として知られるようになった。明治初期から尾張徳川家による開拓が始まった八雲地域に対し、熊石地域は古くからまとまった集落があり、江戸期には松前藩が和入地と蝦夷地との境として番所を設けた土地。二つの異なる歴史文化を体感できるの

で興味深い。八雲地域への旧尾張藩家臣団による入植は、1878年、旧藩主徳川慶勝公の指導で始まった。民間資本による集団移住の先駆けで、遊楽部川の河口近くに「開拓移住者上陸の地碑」がある。「八雲」の地名は、慶勝公が古事記の古歌から名付けた。

八雲町は、北海道土産で名高い木彫り熊の故郷といわれる。第19代当主の徳川義親公は冒険好きな狩猟家で、当主になった1909年頃から八雲町の徳川開墾場を訪問し、熊狩りを楽しんだ。欧州旅行の際にスイスで見つけた民芸品にヒントを得て、貧しい農民の冬季の現金収入として木彫りの熊作りを奨励、作品を買い上げたという。

24年、酪農家の伊藤政雄さんの制作の第1号は全長10センチの小ぶりの熊。郷土資料館に併設の「木彫り熊資料館」に展示されている。八雲の熊は、口にサケをくわえていないのが特徴だと、学芸員の大谷茂之さんが教えてくれた。実際

に2頭の小熊を飼育してモデルにしたため、表情が柔らかく、やんちゃな雰囲気があるて愛くるしい。町中の商店の店頭には、「招き猫」ならぬ「招き熊」が飾られている。「木彫り熊探索マップ」を手に、ぶらり町歩きをしてみたい。義親公は、八雲の人たちから親しまれ、資料館の敷地内にある胸像には「徳川さん」と刻まれていた。

北海道らしいダイナミックな景観を楽しむには、「ハーベストスター・八雲」のシラカバ並木がおススメ。800メートルの並木道が海に向かってまっすぐ延びている。88年、米国の農場をモデルにオープンした実験農場はスローフードにいち早く取り組んだ。天然ハーブを加えた飼料で育てられたハーブ鶏が名物で、レストランも充実している。

江戸時代、最北の番所があった熊石地域には、和人とアイヌ民族の対立にまつわる様々な伝説が残る。歴史好きには興味を尽きない。巨岩が海にせり出している「奇岩雲石」はぜひ訪ねよう。

名言巡礼

北海道



江戸時代、最北の番所があった熊石地域には、和人とアイヌ民族の対立にまつわる様々な伝説が残る。歴史好きには興味を尽きない。巨岩が海にせり出している「奇岩雲石」はぜひ訪ねよう。

花咲く娘たちは 花咲く野辺で ひな菊の花の首飾り やさしく編んでいた



生乳を運ぶため整備されたミルクロードは、ジョギングコースとしても人気。■噴火湾 18世紀末に来航した英国船船長が、湾を囲んで噴煙を上げる駒ヶ岳などを見て命名。周辺の丘陵地にはキャンプ場などの施設が充実。■問い合わせ 八雲町役場商工観光労政課=☎0137・62・2116。

旅のチカラ ■アクセス 羽田空港から函館空港まで1時間20分。函館から八雲までJR特急で約1時間。■二海カレー 太平洋側と日本海側の両方の食材を組み合わせたご当地グルメ、ホワイトカレー。ニンニクと唐辛子が利いたおとなの味。■さらんべ公園 アイヌ語で「尾の川」を意味する町民の憩いの場。運が良ければ、夜間、モモンガの飛翔=写真=をカメラに収めることも。■育成牧場 170歳の草地に、5月から10月まで町が飼育を委託された若牛約700頭を放牧。

八雲町



イラスト・齊藤ヨーコ

解散後 歌のふるさと訪ね



ザ・タイガースでドラムを担当した瞳みのるさん(東京都台東区)

タイガースでドラマーとして活躍した瞳みのるさんは、1971年のグループ解散後、慶応大学に進学、修士課程を修了して慶応高校の教師になり、中国語と漢文を担当した。2011年、沢田研二さんら元メンバーの熱心な呼びかけに応じて音楽活動を再開。13年、「ザ・タイガース花の首飾り物語」(小学館)をまとめた。「タイガースのヒット曲の中で特に好きな曲の一つ。冒頭の1節からどこか切なく美しい世界観が広がる。この歌で、やかましいグループサウンド(GS)が大人にも認知された印象がある」と語る。GS時代は忙し過ぎて、自分たちの音楽がどんな人に支えられているのかを考えると裕がなかった。「歌のルーツ

をたどることは、自分探しの旅。僕は(う)うふうふうに生きてきたのだと確認しつつ、過去と現在と未来の三つをつないで、今後やらなければならぬことを模索するきっかけになった」と振り返る。10年秋、初めて作詞者、菅原房子さんの故郷 八雲町を訪ねた。町役場の職員がたまたま彼女の親戚で、結婚して愛知県在住とわかり、電話で話すことができた。現在、瞳さんは中国や台湾でもコンサート活動を行っている。自ら訳した中国語の詞で「花の首飾り」を歌うと、会場の皆が静かに聴き入ってくれるのがうれしい。日本だけでなくアジアの国々で歌い継がれる楽曲に育てていくのが、瞳さんの夢でもある。